

紀南・紀北で温暖化防止イベント

3月5日・11日 地域性活かし連続開催

県センターの温暖化防止イベントとして3月5日、「熊野の森から環境の世紀を考える」が同センター紀南支部の主催により田辺市のBig・Uで、約400人が参加する満席の盛況のうちに開催された。同イベントは、重柗隆代表理事の挨拶で開会、続いて楠本隆・県環境生活部長が祝辞を送り、(財)国際生態学センター・宮脇昭研究所長が「いのちの森づくり・生態学的な処方箋にもとづいて」と題して講演した。これに続き、熊野の写真家・楠本弘児氏や和歌山大学の中村太和教授らによるパネルディスカッションが行われ、熊野の自然の大切さが強調されるとともに保全に向けた提案がなされた。



紀州レンジャーショーに電力を供給する紀北工業高校自転車部



(財)国際生態学センター 宮脇昭研究所長

また隣接する展示会場には、地元の企業や環境団体のブースが並び、活動状況や新エネルギーの紹介などが行われた。

3月11日、紀北実行委員会が開催した「紀の川環境フォーラム'06」(かつらぎ総合文化会館イベント会場)は前日の雨が嘘のように晴れ上がり、快晴の野外イベントとなった。同フォーラムは中岡準実行委員会代表(はしもと里山保全アクションチーム)の開会挨拶に始まり、楠本隆部長と山本恵章かつらぎ町長の祝辞のあと、紀北農芸高校の和太鼓で勇壮に幕を開けた。会場には26の企業・環境団体の出展ブースが並び、水・太陽光発電・環境保全型農業などをテーマとする展示や、地元の新鮮な食べ物の直売などが行われた。一方ステージでは紀州レンジャーショーやライブ演奏、環境リレートークなどが行われ、その間、電源を紀北工業高校自転車部10人の汗だくの自転車発電によって賄う感動的なイベントとなった。茶粥や餅も振舞われ、約1200人の参加で会場は終了まで賑わった。

NPOわかやま環境ネットワーク

第2回 通常総会のお知らせ

<p>日時: 5月20日(土) 13:30~16:00 (13:00開場)</p> <p>開場: 和歌山市立中央コミュニティセンター (和歌山市三沢町1丁目2 TEL: 073-402-2678)</p>	<p>議題: 1、2005年度総括と決算 2、2006年度方針と予算 3、新役員の選任</p>
--	--

3月5日 紀南イベント



環境展示では企業・環境団体の20ブースが並び、いちいちの会の「健全な森の復元」をテーマとした展示や、(有)



丸物の「循環型食品リサイクル」の紹介、エコトップ(株)の「太陽光発電での環境効果」の紹介、また子どもたちが描いた「ストップ温暖化ポスターコンクール」の作品展示、石橋石油(株)ではソーラーカーの試乗も行われた。

メイン講演である宮脇昭氏の講演は植林された森の写真が映し出されるたびにため息が漏れた。過去に世界中で3千万本の木を植えてきた宮脇氏は訴える「何を未来に残すのか？それはいのちの森である」と。昔から京都や鎌倉・紀伊山地には自然が残っている、その森は祖先が神社や地蔵を作って守ってきたもの、阪神大震災でも昔からの森は倒れることがなかった、そして避難場所になったという。

しかし日本には土地本来の森は0.06%しか残っていない、だから本来の木を植えることが大事なのだ。具体的には「まずその土地の植生を調査して何が生き残っているかを知ること。本来の森はシイ・カシ類が本物で、現在の緑はニセモノである。当地和歌山も同様である」と本来の植生地図を示した。日本の国土は傾斜45度の土地が多く、その土地には土地本来の木を苗から植えることで育つという。宮脇氏は奈良や広島、東京などの例を示して定植3年後、10年後の再生状況を提示した。また中国やボルネオなど、世界中の例も示して土地本来の植生が成功することを証明した。和歌山にはカシ、タブ、シイ、トチが合うという。ドングリを拾い、育て、

みんなで何万本という木の苗を植えようと訴えた。

そして県の楠本部長や重柄代表に何となくエールを送った。楠本部長は「宮脇方式による植林を和歌山でやってみてほしいなあ」と感想を述べていた。

パネルディスカッションは、わかやま喜集館の細谷昌子講師がコーディネーター。国際熊野学会・林雅彦会長は作家・



佐藤春夫の作品や童謡などを引用、熊野がいかに素晴らしく、文化を持ち、守らなければいけないかを強調した。また写真家・楠本弘児氏は下草の生えない森や那智の滝の水量低下、山肌の露出した写真などを提示、もう一度現状を見直してほしいと訴えた。和歌山大学・中村太和教授は熊野の森を照葉樹にすることが復活の道であり、スギ・ヒノキをバイオマスイエネルギーに転換して売れるシステムを作ることが大事と提案、熊野が緑の油田であることを強調した。

3月11日 紀北イベント

「会場内は化石燃料によるエネルギーは使用しない！」と薪、太陽光発電、そして自転車による人力発電が導入された。紀北工業高校自転車部10人は、午前10時から午後5時前までステージでのマイク、アンプ等の電源を供給した。



紀北農芸高校の勇壮な農芸太鼓

環境リレートークは和歌山大学・中島敦司教授の司会で、粉河高校 KOKO 塾など5団体が発表や思いを披露した。九度山小学校5年生は、最も水質を汚染するのはジュースや味噌汁で「人間が体に入れるもの」と調査・発表し、給食を残さず食べるなどのエコスクール宣言を行った。



九度山小学校5年生の発表



汗かきエコライブ1st ステージ
(バグースバンド) ↑
汗かきエコライブ2nd ステージ
(アッキー&トシのロックダンス) ↓



紀州名物・茶粥がふるまわれた



会場は新エネ、農業、水等をテーマに26ブースで賑わった



温暖化防止啓発で紀州レンジャーと協働



県センターとしての温暖化防止啓発活動について運営委員会で検討を重ねた結果、そのひとつとして「集客力の多い場所にでかけて温暖化防止をアピールする」ことが決まった。具体的には和歌山市のパームシティや田辺市のパビリオンシティ等のショッピングセンターで小規模の啓発イベントを行うもので、WeNETメンバーや推進員がそれぞれの思いを書いたボードを持ってアピールするほか、紀の國戦隊・紀州レンジャーのショー、エコバッグの廉価販売、自転車発電も利用した音楽ライブなどを、ひとつのパッケージにまとめ各地で展開する計画。今年度は和歌山市を含む紀北地域で2回、紀南地域で1回の計3回を週末の人出が多い時間帯に実施する予定。第1回目を6月頃に和歌山市で実施しようと準備を始めている。

2005年度推進員研修スキルアップ講座について

2005年3月に県知事より委嘱された和歌山県地球温暖化防止活動推進員の知識・コミュニケーションスキル・意欲の向上、推進員同士の連携の強化を目的として、はじめてのスキルアップ講座が3回にわたって行われました。この講座では、たんに学習するだけでなく、実践的な課題に答えようということで、県が策定中の「和歌山県地球温暖化対策地域推進計画」について学習し、最終的には同計画案へのパブリックコメントとしてまとめることが目標とされました。

第1回の講座は、同計画の策定委員でもある谷川寛樹・和歌山大学助教授から温暖化対策地域計画についての講義を聞き、県内3地域に分かれた推進員のグループで今後の地域における推進員活動について話し合いました。第2回は、地域別に開催し、県の担当者から同計画案の詳細について説明を受け、討論しました。第3回は、中島敦司・和歌山大学助教授のコーディネートにより、それぞれの推進員が意見をもち寄り、討論を深めました。最終的には、その成果をわかやま環境ネットワークから県へのパブリックコメントに反映させることができました。

報告：前岡正男

第2期推進員養成講座報告

昨年12月から始まった第2期地球温暖化防止活動推進員の養成講座は、県センター及び第1期推進員の企画・運営により今年2月に計5回の講座を終了、30人の新たな推進員が誕生した。

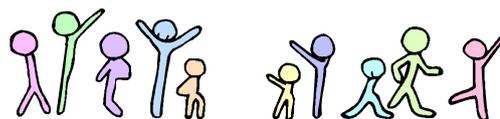
第2回から5回の講座では（第1回はういねっと2号に掲載）、NGO環境市民の堀孝弘事務局長や立命館大学・和田武教授、兵庫県センターの菊井順一事務局長らが講義し、リデュース（ゴミを最小限に抑える）が最優先であることや、環境に配慮したグリーン購入の大切さ、また風力発電などの新エネルギーやバイオマス（間伐材等のエネルギー化）の有効性、他府県推進員の取り組みなどを学習した。県内からも、推進員・中村美由紀さんによる「よさこい3R企画（祭りでの食器のリユース等）」の報告、NPO共育学舎・西川一弘氏の菜の花エコプロジェクトの取り組み（廃食油のディーゼル燃料化）、NPO地球人学校・中西俊吾氏の風力発電調査などの発表がなされた。また第1期推進員の活動事例として御坊市での地道な啓発活動なども紹介され、1つの指針となった。

最後の講座では環境共育事務所カラーズの西村仁志所長の「環境保全活動の企画作り」の講義の後、実際にグループに分かれて企画作りに挑戦、飲料自動販売機の撤廃やエコバッグ普及のための親子イベントなど、これからの県内での活動についてそれぞれの思いを出し合った。

2月26日、知事からの正式な委嘱を受けて第2期推進員は温暖化防止活動に新たな一歩を踏み出した。

気がるに・気らしくに
エコライフ

自然の恵みで省エネを
川口美智子のエコスタイル



桜も散り、新緑若葉の季節となりました。そして、太陽の日照時間もだんだん長くなってまいりました。この太陽エネルギーを利用したソーラーライトが、

夜間我が家の家の周りや庭園で優しく輝き、外灯の役割をしています。



ソーラーライトは日中、ソーラーパネルで太陽光を吸収し太陽エネルギーを電池に蓄積します。周囲が暗くなると電池に蓄積された太陽エネルギーを使って自動的にライトが点灯し、明るくなると消灯します。電気代・工事費のかからない外灯というわけです。また、これを家の中に持ち込めば廊下などの室内灯として一晩中照らしてくれます。電気代の節約に関しては、夜11時から朝7時までの電気使用が多い家庭は、契約形態を「時間帯別電灯」にかえる事で電気代を節約できる場合があります。我が家ではこうして節約できた電気代でソーラーライト（700円程度）を購入し省エネへの再投資をしています。



それぞれ暮らしのスタイル一つをとっても十人十色です。エコスタイルにはこれという決まりがあるわけではないので、一つひとつを考えて自分のエコスタイルを見つけましょう。

クローズアップ！ わたしたちの活動 (3)

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

有機農産物生産グループ 紀州大地の会

代表世話人 園井信雅

～エコロジカル＝生態調和型の「食」と「暮らし」と「地域社会」の創造～

当会は「和歌山 EM 活用研究会」に集まった農家7軒の有機農法勉強会として、平成7年に発足した。その後、(財)自然農法国際研究開発センターから自然農法と有用微生物群の活用についての指導を受けつつ、より集うメンバーも増えていった。併せて、いわゆる“無農薬有機農産物”の販売も必要に迫られて手がけることになった。設立翌年には、まず稲作農家13軒と100世帯ほどの消費者との間に、産消(生産者と消費者)提携が生まれた。(現在は15軒と約200世帯)

当会の理念は、現代的な有機農畜産業の興隆と環境浄化の推進を通して、「食」と「暮らし」の本質的レベルアップを目指すと共に、同じ念いの人たちと「循環型社会」の進展に寄与すること。そして、時代の課題は十分自覚しつつ、あくまで「今、ここをどう耕すか？」を実践テーマとしたい。



有機水稲部会員



水稲現地研修

現在の会員は有機JAS認定農家23軒を中心に約70軒(含企業)。主要活動は、エコ農畜産物の生産と流通販売(卸売り・産消提携・オーガニック商社と提携しての食品・生活用品の総合宅配など)、地域の環境浄化や学校の環境教育・地域の社会教育などでの技術協力である。当会は緩やかな技術研鑽グループですが、特性としてはメンバー個々の自立心が高いこと、営農分野が多彩なこと、全国的な情報交流が豊富なこと、一方で所在地が散在しているた

めに共同出荷体制がとりにくいことです。(水稲に次ぐ共同出荷物の有機みかんは、オーガニック商社や首都圏の百貨店・量販店が主力販売先)

今年の重点活動は、①エコ農畜産業の一層の振興 ②大手リサイクル業社と提携して、都市生ゴミ(食品加工業社やスーパー排出)の超減容堆肥化とオリジナル特殊肥料の製造 ③宅配業務の充実(情報・技術・食べ物・用品など)による子供たちの「食」と「暮らし」の質的向上をサポート ④地球温暖化防止キャンペーン。運営形態は、理念実現を第一義とする持続可能な市民企業(?)を目指したい。



P・Bで出荷する有機みかん



ボカシ作りに挑戦

「紀州大地の会」連絡先

〒640-8225 和歌山市久保丁3-20 TEL/FAX 073-423-5333

URL >> <http://www.geocities.jp/ecolifewakayama/>

県家電商組合等と協働

全国初 32人を環境マイスターに認定

町の電器屋さん、地球温暖化問題などの環境問題や省エネについてしっかり学んでもらい、環境マイスターに認定する講座が、1月27日と2月8日の2回和歌山市内で開かれ、修了試験をパスした32人の電器屋さんや家電販売員が認定された。

この講座は、NPO環境市民（本部＝京都市）が内閣府からの事業委託を受け、WeNET、県家電商業組合の3者が協働、和歌山県が後援し、同時実施の山形県とともに全国で初めて開かれた。省エネ家電製品はエネルギー起源の温室効果ガスを減らす即効性があるため、正確で豊富な知識を持つ販売員が勧めることにより、今後の普及に弾みをつけるのが狙い。

認定されたある環境マイスターは、「省エネ製品はちょっと高めだが電気代が安い分、長い目で見ればトクになり、環境だけでなくお客さんにもいいことがよくわかった」「これから自信を持って勧めてゆきたい」と話していた。

家電省エネラベルも秋に導入へ

省エネ家電の普及促進については、家電省エネラベルの県内導入に向けた検討会も3月15日に和歌山市内で開かれた。WeNETが主催した同検討会には、

家電業界、消費者団体、婦人団体、行政機関などが出席、今年秋頃の実施をめざして現在、経済産業省の専門委員会で全国統一の表示内容を定める作業が進められている新しいタイプの家電省エネラベルを、県内に導入することについて意見の一致をみた。そのうえで、新しい制度の概要が定まり次第、導入に向けた実務的な話し合いの場を設ける。

地球温暖化防止活動推進員等 交流会に参加して

平成18年2月21日～22日東京で開催された。この交流会に参加し、推進員の方々と色々なお話をさせて頂く機会が出来た。推進員の方々が苦労されている悩みの多くは、学校との連携をどうやったら上手く取ることが出来るかであり、将来を担う子供達へ伝える事が重要であると考えておられた。またウェービングという手法をグループで体験し、学ぶことが出来た。この手法は一つのテーマから幾つかのキーワードを決め、そのキーワードから関連する項目を広げていく、つまり波のような広がりを持って、最終的には地球温暖化防止の活動方法が理解できる手法であります。

報告：前岡秀幸

NPOわかやま環境ネットワーク通信「ういねっと」

第3号（平成18年4月15日発行）

発行：NPOわかやま環境ネットワーク
 代表理事：重栖 隆 事務局長：前岡正男
 編集人：中西茂美 竹本由賀 目祐二郎 松下靖彦
 〒641-0051 和歌山市西高松1-6-4
 TEL:073-432-0234 FAX:073-421-6545
 HP : <http://www.vaw.ne.jp/wenet/>
 E-mail : wenet@vaw.ne.jp

活動に参加して下さる会員を募集しています！

年会費	運営会員（個人・NPO・学校）	3000円
	（事業者・公共団体）	一口10000円
会 員	（個人・NPO・学校）	3000円
	（事業者・公共団体）	一口10000円

※詳しくは事務局までお問い合わせください。

事務局地図

